

と判断した。

この患者における定常状態における平均血漿中濃度を2.5mg/Lとした。ポリコナゾールの1日投与量 (mg/day) として最も適切なのはどれか。1つ選べ。

ただし、ポリコナゾールの定常状態における平均血漿中濃度と体内からの消失速度の関係はMichaelis-Menten式で表され、Km値は0.50 mg/Lとする。

- 1 500      2 600      3 700      4 800      5 1000

■出題の特徴とアドバイス

本設問は、ポリコナゾールの1日投与量を求める投与計画です。問題文中の「ポリコナゾールの定常状態における平均血漿中濃度と体内からの消失速度の関係はMichaelis-Menten式で表される」という部分から、非線形性の体内動態と考え解答しましょう。薬剤では、「**薬物速度論**」「**TDM (投与計画含む)**」「**固形材料**」の項目で計算が頻出です。問題中に記載してある条件に注目しながら演習を進め、対応力を養いましょう。

実務

第105国試 問340 (参考正答率\* 62% 解答番号1)

58歳男性。糖尿病で近医にてインスリン治療を継続している。前回と同じ内容の処方箋を持って薬局を訪れた。残薬を確認したところ、インスリン注射液の残薬はないが、使用可能な注射針が13本自宅にあるとのことであった。薬剤師が注射針の必要数を計算したところ、処方量が不足していることに気づいた。

(処方1)インスリンアスパルト(遺伝子組み換え)300単位/3mL 3キット

1回3単位 1日3回朝昼夕食直前皮下注射(自己注射)

(処方2)インスリングルルギン(遺伝子組み換え)300単位/3mL 2キット

1回8単位 1日1回夕食直前皮下注射(自己注射)

(処方3)BDマイクロファインプラスTM 31G×5mmペン型注入器用注射針(7本/袋)4袋

注射時に空打ちで2単位使用する。医師に提案する追加すべき注射針数(1袋7本入り)として最も適切なのはどれか。1つ選べ。

- 1 29袋      2 31袋      3 35袋      4 48袋      5 50袋

■出題の特徴とアドバイス

実務領域の計算問題の難易度は**平易～中等**の場合が多く、本間のような内容だけでなく、他には**散剤・液剤・消毒薬・輸液(カロリー、mEq、Osm、NPC/Nなど)**などの計算問題も出題されます。それらの出題傾向として、**設問中から必要な情報を的確に見つけ出し、活用することが求められています**。既出問題を解く際に、「**なぜ、このような解法なのか?**」「**解き方を暗記するのではなく理解して解く!**」などを意識し、反復して練習しましょう!

そして、近年の既出問題は特に臨床現場で実際にあるような事例がベースとなっていますので、**要チェック**です。実務実習のことを思い出しながら、学修を進めましょう。

※参考正答率：薬学ゼミナール自己採点システムによるデータ(12641人参加)より

今回はバレンクリンの効果についてお話ししましたが、今回は禁煙介入に関する興味深い研究(PMID: 26928205)をご紹介します。

この研究では喫煙者160人が対象となりました。被験者はニコチンパッチによる禁煙補助介入群と、ニコチンパッチに加えてツイッターによるグループメッセージや励まし合いを行うソーシャルネットワーク介入群のどちらかにランダムに振り分けられ、禁煙維持割合が比較されました。その結果、60日間における禁煙維持割合は、ニコチンパッチのみと比べて、ソーシャルネットワーク介入で2.67倍になる(95%信頼区間1.19~5.99)ことが示されました。ソーシャルネットワークによる介入を上乗せするだけで、禁煙維持割合が大幅に増えるという結果は、とても示唆に富むものです。

禁煙が困難な状況はニコチン依存症と呼ばれますが、喫煙に限らず依存は意



医療法人徳仁会中野病院薬局  
青島周一

これから『薬』の話をしてよう

禁煙補助療法の効果を

高めるためには?

志の弱さが原因だと考えられることも多いでしょう。しかし、タバコがやめられないのは意志の問題だけなのでしょうか。

例えば、喫煙を始めたきっかけをたどってみれば、興味本位はあれど、心の底から喫煙したいと思ってタバコを吸い始めた人は、むしろ少ないのではないのでしょうか。「タバコを吸うことで自分に自信を持つことができた」とか、精神的につらい日々の中で「タバコを吸う時間だけが癒しをもたらしてくれた」などの経験や環境もニコチン依存を形成していくように思います。

改めて考えてみると、依存は日常にありふれています。むしろ、社会的に許容できるか否かという線引きはあります

が、例えばスマホ依存やネット依存も依存には違いありません。人は多かれ少なかれ何かに依存しているのだと思います。依存することで孤独や不安、寂しさを和らげ、安心や希望を手にすることができるのです。

禁煙できない人は、意志が弱いわけではなく、希望のある生活を維持するために必要な依存の矛先が、喫煙しかなかったということなのかもしれません。このような人にとって、喫煙は健康にも勝る価値があります。人は健康のために生きているわけではないからです。ソーシャルネットワークによる介入は、依存する先をタバコから、他者とのつながりに広げることで、禁煙維持割合を高めたのかもしれませんね。

臨床に役立つ知識満載の『漢方実践書』



【医療用漢方製剤・構成生薬解説】

基礎からの漢方薬

第4版

- 「漢方医学」
- 「漢方の基礎理論」
- 「調剤、服薬指導」
- 「生薬・方剤」

などを図表やカラー写真を多数使い、わかりやすく解説!

著 金成俊 (横浜薬科大学教授)

B5判/340頁 定価 5,000円+税



詳細は「しずく」